

令和元年度

社会福祉法人 阿闍羅会

障害福祉サービス事業所

【生活介護】

【就労継続支援 B 型】

ワークキャンパス大鰐

事業報告書

令和 2 年 6 月 1 0 日 作成

住 所：青森県南津軽郡大鰐町大字三ツ目内

字水沢出口 1 1 7 番 1

電 話：0 1 7 2 - 4 8 - 2 4 2 6

F A X：0 1 7 2 - 4 8 - 2 4 8 3

目次

〈Ⅰ〉 法人	1
1 理事会・評議員会等	1
2 役員及び評議員の退任と選任	1
3 共同生活援助始業グループホーム事業統廃合	1
〈Ⅱ〉 施設経営	2
1 職員行動目標に関する報告	2
2 職員の入退職	3
3 しいたけ調整加工作業所の建設	3
4 自己評価	5
(1) 評価結果	5
(2) 分析	9
〈Ⅲ〉 支援内容	10
1 生活支援	10
2 生活介護	11
3 作業支援	11
(1) しいたけ事業	12
4 保健支援	13
5 余暇活動支援	14
(1) 行事等	14
(2) 利用者会活動	15
〈Ⅳ〉 給食	20
〈Ⅴ〉 防災	21
〈Ⅵ〉 広報	21
〈Ⅶ〉 会議	23
〈Ⅷ〉 人材育成計画研修（研修計画）	25
〈Ⅸ〉 苦情解決	30
〈Ⅹ〉 地域生活支援	30
〈Ⅺ〉 共同受注窓口	32
〈Ⅻ〉 虐待防止委員会	34
〈Ⅼ〉 安全巡視	35
〈Ⅽ〉 地域交流	35

〈I〉 法人（担当：田中大生）

1 理事会・評議員会等

年月日（曜日）	事業	場所	参加者
令和元年5月15日（火）	監査会	ワークキャンパス大鰐 ワークショップ大鰐	監事 2名
令和元年5月24日（火）	第1回 理事会	ワークキャンパス大鰐	理事 4名 監事 2名
5月29日（水）	評議員選任・解任 委員会	ワークショップ大鰐	委員 3名
6月12日（水）	第1回 評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員 7名
6月19日（水）	第2回 理事会	ワークキャンパス大鰐	理事 5名 監事 2名
9月25日（水）	第3回 理事会	ワークキャンパス大鰐	理事 6名 監事 2名
9月27日（金）	第2回 評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員 5名
11月19日（火）	第4回 理事会	ワークキャンパス大鰐	理事 6名 監事 2名
11月29日（金）	第3回 評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員 7名 監事 1名
令和2年3月10日（火）	第5回 理事会	ワークキャンパス大鰐	理事 5名 監事 2名
3月26日（火）	第4回 評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員 7名 監事 2名

2 役員及び評議員の退任と選任

平成31年 3月 9日 評議員 外崎俊一 死去による退任

令和 元年 5月29日 評議員 山口守一 選任

3 共同生活援助事業グループホーム事業統廃合

ア 目的

4つの事業に分割されている共同生活援助事業をまとめ、一体的管理による効率化とそれによる事業活動資金収支差額の増に繋がることから、各居室において生活する利用者の処遇向上と、今後の利用希望者に新たな居宅提供するための準備資金の貯蓄を目的とする。

イ 廃止および変更の内容

（ア）廃止

事業所名（定員）	廃止日
グループホームあやめ（定員7人）	令和 元年11月30日
グループホームすみれ荘（定員6人）	令和 元年11月30日

(イ) 変更

- ① 変更年月日 令和 元年 1 2 月 1 日
- ② 事業の種類 名称 (総定員)
共同生活援助事業所 グループホームさくら (総定員 1 8 人)
- ③ 共同生活住居数 3 棟

住居名称	定 員
グループホームさくら	6 人
グループホームあやめ	7 人
グループホームすみれ	5 人

〈Ⅱ〉 施設経営

1 職員行動目標に関する報告 (白石安英)

ア 「利用者の支援」

- (ア) フェイスシート (利用者基本台帳) については、保護者が記入したものをベースに整備を進めたが、過年度の整備は特にケース担当が変わった場合に難しい面があった。利用者支援の基礎になるものとして正確性を期すため、未記入箇所の追記を行い整備する必要がある。(各ケース担当者)
- (イ) アセスメントシートについては、内容 (項目) の見直しと生活領域と就労領域を分けて設定した。実際に評価しながら修正点等の確認を進めるとともに、支援と個別支援計画の基礎として活用できるように努めた。情報共有とともに日々の支援の質の向上を図るため活用できている。(各ケース担当者)
- (ウ) ケースファイルの管理を徹底し年次毎の未整備部分を解消できるように努めたが、まだ不十分である。今後は、チェックリスト等の活用により資料環境の整備・維持に更に努める必要がある。(サービス管理責任者)

イ 「仕事面の支援」

- (ア) しいたけ栽培の法人一本化のため、ワークショップ大鱈の職員のスキルアップにより、利用者の作業内容習得と作業工程習熟に向けた支援の充実に努めた。キャンパスまでの利用者の移動やショップ職員のスキルアップなど課題解決の工夫や更なる充実に努める必要がある。また、利用者の中からのリーダー育成については、作業の習熟という点ではまだ不十分で時間が必要である。利用者の適材適所による仕事の充実感と工賃アップに向けた生産性の向上については、継続して取り組む必要がある。(全職員)
- (イ) 利用者にとってより働きがいのある就労を目指すため、工賃支給規程改定し利用者給与表を新たに作成し実際に運用した。利用者にとっては、評価が工賃アップに表れると同時に次の目標が見える点は大変よい。職員も慣れることによってスムーズな運用が可能になるものと考えている。三者面談の際に本人・保護者に説明し理解を求める方法としても有効であり個別支援計画との一本化により支援の根拠として機能できるように努める必要がある。(生活支援員・職業指導員)

ウ 「地域生活の支援」

- (ア) グループホームでの生活の質の向上のため、世話人の専門知識の向上は継続的課題ではあるが、グループホーム関係者会議のミニ研修への定期的参加と法人内研修への自主的参加により資質向上に繋げることができた。(課長)
- (イ) 世話人とケース担当者の日常的な連携については、業務日誌による情報共有と緊急時には担当者の直接訪問により連携強化を図った。また、サービス管理責任者やバックアップ施設の担当課長が定期的に各ホームを訪問することにより、世話人との連携強化と必要に応じた支援・助言を行うことができた。(課長)
- (ウ) グループホームと各施設との連携推進のため、各ケースに関する情報（支援計画や都度の支援方針・服薬管理など）の共有を図ってきた。会議・研修等に参加できない場合の資料提供等はこれまでどおり実施してきたが、11月の指導監査で指摘を受けた、会議・研修欠席者への具体的なフォローの方法を検討し準備しておく必要がある。(ケース担当、サービス管理責任者)
- (エ) 各施設・グループホームは地域との連携を図るため、学校の実習・体験等の受け入れや関係機関の見学・研修への対応、公開研修会の実施等の取り組みを積極的に進めることができた。(課長)

エ 「職場の環境」

- (ア) 「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」を積極的に行い、風通しよい職場環境構築のため、職員全体で相互に協力することができた。不十分な部分も見受けられるので、更に職場環境を充実させるため、職務上の課題を共有し方向性を明確にして取り組みを継続する必要がある。(全職員)
- (イ) ストレスチェックを継続して実施することにより、その結果から職員個々の状況を確認するとともに職場自体の抱える問題も早期に発見・対応できるように努めた。(施設長)

2 職員の入退職（田中大生）

ア 入職

令和元年7月 1日 ワークキャンパス大鰐 職業指導員 後藤幸雄（非常勤）

令和2年1月21日 ワークショップ大鰐 調理員 渡邊亜希子（非常勤）

イ 退職

令和2年3月31日 ワークキャンパス大鰐 職業指導員 神則男（非常勤）

令和2年3月31日 ワークショップ大鰐 調理員 渡邊亜希子（非常勤）

※ 以前より勤務の世話人業務の日数増のため。

3 しいたけ調整加工作業所の建設（佐藤直幸）

しいたけハウス増築に伴い、収穫量の増加が見込まれる。そこで、作業の効率化を図るため新しい調整加工作業所が必要となり計画した。資金面として農林水産省主催の「農山漁村振興交付金」へ応募し結果採択となり実施した。内容は下記のとおりである。

令和元年 6月14日 東北農政局より交付金採択通知
10月29日 施工業者入札 落札業者「(株)西村組」
10月31日 請負契約、工事開始
令和2年 1月31日 しいたけ調整加工作業所完成、施主検査、引き渡し

【総事業費】	建設費	20,680,000	円
	設計費	544,500	円
	合計	21,224,500	円

(内 10,000,000 円 農山漁村振興交付金)

現在、しいたけの選別場所および乾燥しいたけの作製場所として稼働中である。
今後、しいたけ調整加工作業所を利用して作業効率をより良いものにし、しいたけの質の向上等を推進していきたい。

4 自己評価（田中大生）

（1）評価結果

ア 分析方法	着眼点数の	7割以上	「a」
		7割未満 4割以上	「b」
		4割未満	「c」

イ 評価結果

【共通評価基準】

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。			自己評価結果
1	①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a

I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等適切に対応している。			自己評価結果
2	①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
3	②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a

I-3 事業計画の策定

I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			自己評価結果
4	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
5	②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。			自己評価結果
6	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
7	②	事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。			自己評価結果
8	①	福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
9	②	評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。			自己評価結果
10	①	管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
11	②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。			自己評価結果
12	①	福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a
13	②	経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a

II-2 福祉人材の確保・育成

II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。			自己 評価結果
14	①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	c
15	②	総合的な人事管理が行われている。	a
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。			自己 評価結果
16	①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			自己 評価結果
17	①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
18	②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
19	③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。			自己 評価結果
20	①	実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	c

II-3 運営の透明性の確保

II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。			自己 評価結果
21	①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	c
22	②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a

II-4 地域との交流、地域貢献

II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。			自己 評価結果
23	①	利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
24	②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。			自己 評価結果
25	①	福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。			自己 評価結果
26	①	福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	a
27	②	地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b

III 適切な福祉サービスの実施

III-1 利用者本位の福祉サービス

III-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。			自己 評価結果
28	①	利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
29	②	利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a
III-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。			自己 評価結果
30	①	利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	b
31	②	福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	b

Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。			自己 評価結果
33	①	利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見を述べやすい体制が確保されている。			自己 評価結果
34	①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	c
35	②	利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a
36	③	利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。			自己 評価結果
37	①	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
38	②	感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
39	③	災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	c

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。			自己 評価結果
40	①	提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a
41	②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。			自己 評価結果
42	①	アセスメントにもとづく個別支援計画を適切に策定している。	a
43	②	定期的に個別支援計画の評価・見直しを行っている。	a
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。			自己 評価結果
44	①	利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a
45	②	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	b

【内容評価基準】

A-1 利用者の尊重と権利擁護

A-1-(1) 自己決定の尊重			自己 評価結果
A①	①	利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	a
A-1-(2) 権利侵害の防止等			自己 評価結果
A②	①	利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	a

A-2 生活支援

A-2-(1) 支援の基本			自己 評価結果
A③	①	利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a
A④	②	利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	a
A⑤	③	利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	a
A⑥	④	個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	a
A⑦	⑤	利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	a
A-2-(2) 日常的な生活支援			自己 評価結果
A⑧	①	個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	a
A-2-(3) 生活環境			自己 評価結果
A⑨	①	利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	a
A-2-(4) 機能訓練・生活訓練			自己 評価結果
A⑩	①	利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	a
A-2-(5) 健康管理・医療的な支援			自己 評価結果
A⑪	①	利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	a
A⑫	②	医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	c
A-2-(6) 社会参加、学習支援			自己 評価結果
A⑬	①	利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	a
A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援			自己 評価結果
A⑭	①	利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a
A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援			自己 評価結果
A⑮	①	利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a

A-3 発達支援

A-3-(1) 発達支援			自己 評価結果
A⑯	④	子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	e

A-4 就労支援

A-4-(1) 就労支援			自己 評価結果
A⑰	①	利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	a
A⑱	②	利用者に応じて適切な仕事内容等となるような取組と配慮を行っている。	a
A⑲	③	職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	a

(2) 分析

ア 共通評価基準

I 福祉サービスの基本方針と組織

「理念・基本方針」は、明文化され職員に周知されているが、わかりやすく説明された資料の作成と利用者や保護者への周知が図られていなかったため、平成31年度事業計画書において計画した。(番号1評価結果b→a)

※ 事業計画6広報(3)福祉サービス広報、14地域交流等(3)情報の収集と公開参照

これにより、項目I 福祉サービスの基本方針と組織 全項目「a」評価となる。

II 組織の運営管理

「管理者の責任とリーダーシップ」の評価は良好だが、「人材確保や育成」については、いまだ脆弱な点が多い。平成29年度末に青森県保育・障害福祉サービス事業所等認証評価制度に参加宣言し、社会保険労務士からの助言を受けて取り組みを進めた。「総合的な人事管理」および「職員一人ひとりの育成に向けた取り組み」の項目が大幅に改善された。(番号15評価結果c→a、番号17評価結果c→a)

「地域との交流、地域貢献」は、平成31年度事業計画書へ新規に追加された「14地域交流等」の項目により、地域との関わり方やボランティア受け入れについて文書化・明文化された。(番号23評価結果b→a、番号24評価結果c→a)

次年度への課題は、必要な福祉人材確保・定着等に関する具体的な計画の確立と取り組みをすることである。まずは職員の希望聴取をもとにした総合的な福利厚生に取り組みたい。また、運営の透明性の確保の取り組みとして法人理念・存在意義・活動等を、地域へ明示・説明・配布していきたい。取りかかるのには時間が必要な項目もあることから、できる項目をひとつずつ取り組みたい。

III 適切な福祉サービスの実施

利用者を尊重した福祉サービスの提供や、権利擁護に配慮した福祉サービスの提供については、よく実施されている。しかし、まだ取り組まれていない部分がある。いくつかあり、これもひとつずつできる項目から取り組みたい。前年度の課題としてあげられた、サービスの質の確保に伴う記録方法とその管理、情報伝達方法の整理を見直すために、マニュアル等の作成と周知がされ改善した。(番号44評価結果b→a)

具体的な次年度への課題として、「わかりやすい版事業計画書」を作成し利用者・保護者への配布、利用者満足に関する定期調査と分析、災害時の対応体制や食糧等の備蓄などの取り組みがあげられる。

イ 内容評価基準

利用者の尊重と権利擁護、生活面の支援、就労面での支援は十分に実施されており、今後も継続していきたい。発達支援については当法人において児の支援を行っていない(対象外)ため、評価しない。また、医療的な支援の項目について

は、常に医師の指示を必要とする医療的ケアの対象者がいないため、これも評価しない。

(番号A⑩評価結果b→a)

今年度実施の内容評価基準については、対象者なしのために評価しない項目を除くと、全項目「a」評価となる。

ウ 令和2年度の事業計画書 計画内容

評価結果と分析から、下記のとおり計画した。

- ① 阿闍羅会における福祉人材の確保と育成に関する方針を作成
- ② 総合的な福利厚生の実施を目的とした、職員の希望聴取
- ③ 法人理念・福祉サービスの内容・存在意義・事業活動等を地域へ明示・説明
- ④ 理念・基本方針が、わかりやすく説明された内容を含んだ、「わかりやすい版事業計画書」の作成と、利用者・保護者への配布
- ⑤ 利用者満足に関する定期調査と分析
- ⑥ 避難確保計画を策定し、それに伴う災害時の対応体制の構築や食糧等の備蓄

エ 取り組み担当者

- | | | |
|--------|--------|--------|
| ① 佐藤直幸 | ② 三上拓雄 | ③ 田中大生 |
| ④ 笹田和夫 | ⑤ 植田善久 | ⑥ 白石安英 |

〈Ⅲ〉支援内容

生活支援【生活介護・就労継続支援B型 共通】 担当：中平恵美

日常生活に必要な、基本的な生活習慣の自立を目的とした。

自立性を養い、毎日の積み重ねによって望ましい習慣の形成や、社会生活の態度・性格の社会的適応性を育成し、地域生活への移行を念頭におき、保護者や関係機関と情報共有しながら支援を行った。

1 生活支援

①基本的習慣の定着

あいさつ、時間を守る、排泄、生理の手当て、入浴、衣類の着脱、衣類の調整、洗濯、洗濯した衣類のたたみ方、歯磨き、手洗い、うがい、指手のアルコール消毒、食事とその後始末、整理整頓、掃除などの支援を行った。

②コミュニケーションを図るための支援

- ・言語と受容と表出に関する支援を行った。
- ・パニックに対する本人及び周りの利用者への理解に関する支援を行った。
- ・コミュニケーション手段の選択と活用に関する支援を行った。

③行動に支障がある利用者に対する支援

- ・精神面及び身体面に関する理解とそれに関する支援を行った。

- ・強度行動障害への理解とそれに関する支援を行った。
 - ・自閉症に対する理解とそれに関する支援を行った。
- ④日常生活を送る為に安全な環境作りの支援
- ・奇数月に職員が安全巡視を行って危険な所を確認し改善した。
 - ・作業場の整理整頓をし足場等に危険がないように配慮した。
 - ・行事活動及び休憩時間等に怪我をしないように注意した。
 - ・危険と思われる物（刃物、工具など）は職員室や施錠が出来る場所に保管した。
 - ・ヒヤリハットの報告を情報共有し、未然に事故や怪我が起きないように再発防止に努めた。

2 生活介護

【生活介護】

担当：中平恵美、竹内友紀

【年間作業収入 538,297円】（税抜き 489,361円）

○事業目的にあげるサービスを基にした内容のプログラムに沿って、生産活動、健康維持活動、余暇活動や同設される就労支援B型を利用されている方々との交流も大切にし、変化に富んだ楽しい時間を過ごしていただけるような工夫をし、個々のニーズに応じながら支援を行ってきた。次年度も利用者のニーズを伺いながら、利用者が楽しく喜びを感じていただき、利用者の尊敬を大切に、可能性を引き出して自立を目指したい。

※作業内容：銅線むき、電子部品組立等

○利用者の体調・健康管理は毎月第1火曜日午後に医師の受診を実施した。医師の受診日以外は看護師によるバイタル測定を週2回実施し、体調の異変があった時はその都度対応してきた。次年度は今年度の反省点（バイタルを行う曜日や休んでいる利用者への配慮等）を含め、家族と医師とも連携しながら利用者の体調健康管理を徹底していく。

3 作業支援

【就労継続支援B型】

担当：植田善久

平成31年度(令和元年度)は一人当たりの工賃を平均月額11,500円を目指した結果、平均11,753円となり目標金額を上回った。新しい工賃評価になって初めての年度であったが、利用者さんが休むことなく頑張った成果だと思う。今年度も自主的な挨拶・時間の遵守の他に、相手を思いやる心を育てること・利用者の健康面に配慮することなどを重点項目としている。挨拶は自発的に行う利用者、職員からの挨拶を受けて挨拶をする利用者がはっきり分かれてきたように感じる。また、返事のない利用者も何名か見られるので問いかけには返事をするよう取り組んでいきたい。時間遵守に関しては昨年度同様朝の会やお昼ご飯、帰りの会に出る時間に間に合わない利用者があり、時間通りに出来る人と時間がかかってしまう人との差がさらに広がったように感じる。今後も、作業の開始時間・掃除時間など全員が同じタイミングで取り組めるよう支援し

ていきたい。

思いやりに関しては利用者のほとんどが他利用者のことを気にかけ、いい雰囲気です生活できていると感じられる一方、他利用者のことを気にせずマイペースで生活している利用者も何名か見られる。自分だけではなく他利用者のことも考えられるよう啓発していきたい。

3年連続で職員・利用者でインフルエンザにかかる人が1人もいなかった。これはすばらしいことだと思う。12月からはマスクの着用を促し、冬期間はうがい・手洗いの徹底を励行することでインフルエンザにならなかったと思われる。ただ、1月からコロナウイルスが各地に蔓延したためマスクの確保に四苦八苦するご家族の方も多く、施設でも作業で利用者と職員が密集しないよう工夫が求められている。また、独り言が増えたり今までに無いミスが目立つようになるなど、利用者の中でも変化が見られてきた。これまで以上に利用者の体調面に気をつけて支援していきたい。

(1) しいたけ事業

担当：植田善久

【年間作業収入 17,664,864円】(税抜き 16,058,967円)

栽培菌種	入荷菌床数	入荷時期	発生期間
北研705号	5600菌床(D)	令和元年5月	令和元年9月～令和2年5月
北研705号	3400菌床(A)	令和元年6月	令和元年9月～令和2年5月
北研705号	3600菌床(1号)	令和元年9月	令和元年12月～令和2年9月
北研705号	3400菌床(3号)	令和2年1月	令和2年4月～令和2年11月
北研705号	4000菌床(2号)	令和2年3月	令和2年7月～令和3年2月

平成31年度(元年度) 発生菌床合計数 20000菌床

令和2年度 入荷菌床合計数 24000菌床

○内容及び次年度への課題

平成31年度のしいたけ売り上げ金額は、1菌床あたり883円と昨年度より47円ほど上回った。しかし、平成29年度は1菌床あたり903円だったため、まだまだかと思われる。

収穫量は波はあるもののコンスタントに取れていたが、一番需要が高まる年末と1月中から2月上旬にかけての収穫量が伸び悩み、売り上げに影響が出た。2年連続で1号ハウスの菌床玉が過乾燥になってしまい、湿度を上げるための工夫が求められる。ただ、浸水することで一斉にしいたけが発生したのがわかったのは大きな収穫だと思う。

取引先では10月から東日流青果と契約を結んだことで今まで以上に生しいたけを数多く出すことができ、売上増にもつながった。しかし最低でも20kgの納品が義務づけられているため、今まで以上に収穫量の管理をすることが重要である。

今年もサンマッシュの全国大会に出品し、銅賞と奨励賞を受賞することが出来た。今回は昨年度より当日のしいたけの量が少なく、期待薄の中出品してみたのだが3品中2品が入賞したのは自信にもなった。来年度も金賞を目指したい。

また、今年度は入荷の際に使用するプラコンレールの他に、台車を数多く購入し使用したことでさらなる効率アップと利用者の負担軽減を実現できた。さらに利用者の負担軽減を図るため、さらなる工夫をしていきたい。

今年度は6棟のハウスが全て稼働するため、今まで以上に収穫量が増えることが予想される。大量発生したときの対応や利用者の負担を減らすためにも作業内容の工夫・収穫できる利用者の育成などがますます求められる。また安全面を最優先に考え、歩行に難がある利用者はコンクリートのハウスで作業してもらう等の配慮が必要になると思われる。

また、ハウス内の温度管理と湿度管理を徹底し、菌床玉にカビが発生しないように努めたい。

4 保健支援

①保健指導年間実施日

・定期健康診断（小山内医院で実施）

5 / 13 ~ 5 / 29 ・ 10 / 4

・身体測定（体温・血圧・体重）

4 / 2 ・ 5 / 2 ・ 6 / 3 ・ 7 / 1 ・ 8 / 1 ・ 9 / 2

10 / 3 ・ 11 / 1 ・ 12 / 2 ・ 1 / 6 ・ 2 / 3 ・ 3 / 5

・生活介護利用者対象で、毎月第1火曜日の午後に小山内先生の回診を実施している。

②保健日誌からのまとめと次年度の課題・方向付け

○事故や怪我などなかった。作業中の怪我を防止するためにも、作業場を含む周辺の整理整頓をし、危険がないよう安全な環境作りと支援をしていく。また、利用者の多くは、不調を訴えたり、健康に気を配ることや衣類調整が苦手なので、利用者からの細かなサインや変化を見逃さず早く気付いて、怪我や病気を未然に防げるよう支援していく。

○7月中旬から9月上旬まで、熱中症予防対策として利用者全員にクールネックとペットボトル1本を用意し、こまめに水分補給と適度な休憩を取りながら作業を行った。

○利用者・職員全員に手洗い、うがい、手指のアルコール消毒を徹底し感染症予防に努めた。また、インフルエンザやノロウイルスが流行する前に自宅からのマスクの装着を呼び掛けて、予防に努めた。その結果、施設内でのインフルエンザ感染者はいなかった。インフルエンザ感染対策として、感染予防のため流行の前にワクチン接種の呼び掛けをし重症化を防ぐ。喉の傷み、鼻水、咳、発熱など体調に変化があった場合には、家族の方と連絡を密にして、感染を未然に防ぐ事に努めていく。

- 昨年度から新型コロナウイルスが全国的に感染発症したことに伴い、施設としても手洗い、マスク着用やアルコール消毒などの感染予防も徹底した。
- 毎週火曜日(男子)生活介護利用者の入浴を実施している。状況に応じて生活介護利用者以外でも入浴を開放している。入浴した後は洗濯指導支援も行っている。自分の衣類を洗濯、干す、たたむ事を指導支援して本人の自立へと繋げている。今後も状況を見ながら、生活介護の方以外も危険のないよう入浴を行い、洗濯指導支援を継続していく。また、入浴は利用者の健康維持、清潔保持を目的とするだけでなく身体の異常の発見にも繋がることもある。入浴時は身体の観察なども行っていく。入浴の目的は様々あり利用者の障害に応じて、危険がないよう安全な方法で気持ち良く入浴支援を行っていく。なお、生活介護(女子)はグループホームでの入浴となったため、施設での入浴は必要に応じての対応となった。
- 5月に女子利用者5名の方が大鰐町の婦人科健診を実施している。婦人科健診の結果は異常なかった。病気など未然に防ぐためにも、健診や適度な運動や食事の取り方について、家族や医師、キャンパスの看護師や栄養士と連携を密にしながら指導し、体調管理に留意していく。
- 毎月第1火曜日の午後1時30分より、小山内医院医師がキャンパスに来所して、生活介護利用者対象に回診が行われている。他の利用者については本人から希望があった時は診察を行っている。利用者の多くは不調を上手く訴える事が出来ない方もいる。同医師の回診で、不調を早期に発見し対応出来るようにしていきたい。

5 余暇活動支援

(1) 行事等

実施日	行事名	実施場所
令和元年 4月13日(土)	三者面談	ワークキャンパス大鰐
5月11日(土)	遠足レク	富士見湖パーク
5月25日(土)	調理実習(お好み焼き作り)	ワークキャンパス大鰐
6月7日(土)～8日(日)	キャンプレク	あじやらの森キャンプ場
6月22日(土)	いちご狩りレク	田舎館観光りんご園
7月16日(土)	焼き肉レク	ワークキャンパス大鰐
8月3日(土)	流しそうめんレク	田舎館たんぼアート
8月17日(土)	工作レク	ワークキャンパス大鰐
9月21日(土)	八甲田スポーツセンターレク	八甲田スポーツセンター
9月28日(土)	海を見に行こうレク	道の駅 わんど
10月12日(土)	秋の三者面談	ワークキャンパス大鰐
10月19日(土)	ドライブレク	おおわに自然村
11月9日(土)	ドライブ・外食レク	田舎館道の駅、徹満堂
11月23日(土)	買い物レク	さくら野弘前店
12月7日(土)	忘年会レク	すたみな太郎弘前店
12月21日(土)	クリスマス会	ワークキャンパス大鰐

令和2年1月11日(土)	新年会	ワークキャンパス大鰐
1月27日(土)	トントン大相撲&ちゃんこ鍋	ワークキャンパス大鰐
2月8日(土)	調理学習	ワークキャンパス大鰐
2月22日(土)	ハーバリウム作り	ワークキャンパス大鰐
3月7日(土)	DVD鑑賞	ワークキャンパス大鰐
3月28日(土)	お鍋レク	ワークキャンパス大鰐

○次年度への課題・方向付け

今年度の行事は就労B型と生活介護一緒の行事を企画した。当初、就労B型と生活介護を分けて行事を行うことを考えていたが、生活介護利用者自身が参加したいとの意向や年齢的に若い生活介護利用者の方も通所しているので、合同の開催となった。

就労B型の利用者も身体機能が数名低下してきているので、安全面に配慮した行事を実施したいと考えている。

(2) 利用者会活動

【利用者会全体会】

担当：中畑 幸

実施日	主な内容
平成31年 4月 1日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケア教室の感想 ・バケツプリン作りの感想 ・焼きそばパン作りの感想 ・外食レクの感想 ・三者面談について ・2・3月頑張った人 ・新年度の利用者委員会の発表をしている
6月 10日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・三者面談の感想 ・遠足の感想 ・お好み焼き作りの感想 ・キャンプの感想 ・次回のレクの予定を発表している ・4・5月頑張った人 ・ワーク祭りの利用者出し物について希望をきいた
8月 1日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・いちご狩りの感想 ・焼き肉の感想 ・8月・9月の行事予定 ・6月・7月頑張った人 ・お盆休みの期間を伝えた ・今後のレクについて希望を聞いた
10月 2日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・流しそうめんの感想 ・工作レクの感想

	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークまつりの感想 ・八甲田スポーツセンターレクの感想 ・海へいこうの感想 ・10月・11月の行事予定 ・8月・9月頑張った人
12月 2日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・三者面談の感想 ・ドライブレクの感想 ・ラーメンと買い物レクの感想 ・買い物レクの感想 ・12月・1月の行事予定 ・10月・11月頑張った人 ・来年度の行事の希望を聞いた
2月 3日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者忘年会の感想 ・クリスマス会の感想 ・新年会の感想 ・トントン相撲の感想 ・2月・3月の行事予定 ・12月・1月頑張った人 ・食堂に置いている箱ティッシュの使い方について ・令和2年度利用者会会長等を聞いた

【行事委員会】

担当：植田 善久

- ・平成31年 4月18日(木) 13:00～13:20 委員会発足&遠足行き先会議
- ・平成31年 4月30日(火) 13:00～13:10 ドライブ行き先会議
- ・令和元年 10月31日(木) 14:15～14:30 忘年会行き先会議

・行事委員会は委員会発足会議で、それぞれの役割を決めて一年間活動を行った。自分の役割を理解して積極的に動いていた。行事委員会の会議は、遠足や忘年会など行きたい場所に意見を述べる事が出来ていた。委員会を通して、それぞれ声を掛け合って協力し協調性を養うことが出来た。

【お茶委員会】

担当：中平 恵美

- ・利用者の毎日のお茶や作業用のお茶の準備、休憩時のテーブル拭きやおやつ準備など各担当を決めて行った。
- ・毎日のお茶委員会を通して、責任感や自主性を養った。
- ・毎月末日にお茶委員会を昼休みに行い、毎週水曜日のおやつ計画を立て掲示した。
- ・毎月1回金曜日、布巾とカップをハイターに浸けて消毒実施。(1月～3月は風邪の流行も顕著なため、毎週ハイター浸け消毒を実施。)

月	日	曜日	内容	場所	備考
4	3	水	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 6名
4	26	金	お茶委員会	おやつ買い出し	利用者 6名
5	8	水	お茶委員会	おやつ買い出し	利用者 6名
7	11	木	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 6名
7	19	金	お茶委員会	おやつの買い出し	利用者 5名
9	19	木	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 5名
10	8	火	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 6名
11	19	火	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 6名
12	17	火	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 5名
1	8	水	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 6名
2	26	水	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 6名

【広報委員会】

担当：金枝 友和

- ・毎月月初めに広報委員会を開催し、当月の行事と作業予定を記載と掲示した。
- ・掲示物の貼り出し・貼り替え等を行った。

月	日	曜日	内容	場所	備考
4	2	火	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 5名
5	1	水	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 6名
6	3	月	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 5名
7	1	月	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 7名
8	1	木	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 7名
9	2	月	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 7名
10	8	火	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 7名
11	1	金	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 5名
12	3	火	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 5名
1	7	火	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 5名
2	3	月	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 7名
3	2	月	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者 5名

【美化委員会】

担当：竹内 友紀

- ・2ヶ月に1度、委員会で掃除当番を決めた。
みんな意見を出し合って決めることが出来た。
- ・8月にはホールと作業室の窓拭きなどの大掃除を協力しておこなった。
他にも年3回、大掃除の場所を決めおこなった。
- ・加湿器や扇風機設置などのお手伝いをおこなった。
- ・花の鉢植えをおこない、曜日の当番を決め水やりをおこなった。(6～10月頃まで)

【利用者会事業報告】

月	日	曜	内 容	場 所	備 考
4	1	水	利用者全体会	ワークキャンパス大鰐	利用者 30名
4	2	水	広報委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 5名
4	3	火	お茶委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 6名
4	13	土	三者面談	ワークキャンパス大鰐	利用者 17名
4	18	木	行事委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 6名
4	26	金	お茶委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 6名
4	30	火	行事委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 5名
5	1	水	広報委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 6名
5	1	水	美化委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 8名
5	8	水	お茶委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 6名
5	11	土	遠足レク	富士見湖パーク	利用者 24名
5	17	金	美化委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 5名
5	20	月	美化委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 8名
5	25	土	お好み焼きレク	ワークキャンパス大鰐	利用者 17名
6	7	土	キャンプレク	あじらの森キャンプ場	利用者 13名
6	8	日	キャンプレク	あじらの森キャンプ場	利用者 13名
6	11	月	利用者全体会	ワークキャンパス大鰐	利用者 26名
6	22	土	いちご狩りレク	ワークキャンパス大鰐	利用者 19名
6	27	木	美化委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 7名
7	1	木	広報委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 8名
7	11	木	お茶委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 6名
7	13	土	焼き肉レク	ワークキャンパス大鰐	利用者 23名
7	19	金	お茶委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 5名
7	19	金	美化員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 8名
7	23	火	美化委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 8名
8	1	木	広報委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 7名
8	1	木	利用者全体会	ワークキャンパス大鰐	利用者 28名
8	3	土	流しそうめんレク	追の沢マス釣り場	利用者 14名
8	17	土	工作レク	ワークキャンパス大鰐	利用者 13名
9	8	日	ワークまつり	ワークキャンパス大鰐	利用者 22名

月	日	曜日	内 容	場 所	備 考
9	19	木	お茶委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 5名
9	21	土	八甲田スポーツレク	スポーツセンター	利用者 13名
9	28	土	海を見に行こうレク	道の駅・わんど	利用者 20名
10	2	火	利用者全体会	ワークキャンパス大鰐	利用者 27名
10	7	月	美化委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 8名
10	8	火	お茶委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 6名
10	8	火	広報委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 7名
10	12	土	秋の三者面談	ワークキャンパス大鰐	利用者 12名
10	19	土	ドライブレク	おおわに自然村	利用者 16名
11	1	金	広報委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 5名
11	9	土	ドライブレク・外食	田舎館道の駅・鉄満堂	利用者 16名
11	14	水	行事委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 5名
11	19	月	お茶委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 6名
11	20	火	行事委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 5名
11	23	土	買い物レク	さくら野弘前店	利用者 14名
12	2	月	利用者全体会	ワークキャンパス大鰐	利用者 27名
12	3	火	広報委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 5名
12	7	土	利用者忘年会	スタミナ太郎	利用者 23名
12	17	水	お茶委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 5名
12	21	土	クリスマス会	ワークキャンパス大鰐	利用者 20名
1	7	火	広報委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 4名
1	8	水	お茶委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 6名
1	11	土	新年会	ワークキャンパス大鰐	利用者 14名
1	16	木	美化委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 7名
1	25	土	トントン相撲	ワークキャンパス大鰐	利用者 23名
2	3	月	利用者全体会	ワークキャンパス大鰐	利用者 28名
2	3	月	広報委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 7名
2	8	土	調理レク	ワークキャンパス大鰐	利用者 15名
2	22	土	ハーバリウム作り	ワークキャンパス大鰐	利用者 13名
2	26	水	お茶委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 6名
3	2	月	広報委員会	ワークキャンパス大鰐	利用者 5名
3	7	土	DVD鑑賞	ワークキャンパス大鰐	利用者 13名
3	28	土	調理レク（お鍋）	ワークキャンパス大鰐	利用者 13名

〈IV〉 給食

担当：山口美香

- 1 令和元年度 給食指導 対象者 男 3名 女 7名 計 10名

指導内容		具体的指導方法	対象者
咀嚼・嚥下の補助	①	主菜・副菜～刻み食。	女2名 男2名
糖尿病対策	①	食事療法。	女2名
肥満対策	①	主食の量を少なくする。	女4名
	②	主菜・副菜～刻み食。	男2名
食事の補助	①	フォークの使用。	女1名

全体的に早食い傾向なので、全利用者に対して落ち着いてゆっくりよく噛んで食べ、口の中の物を飲み込んでから、新たに口に運ぶように声がけをしている。

今後も、自分で出来る事はやってもらえるように声がけで見守るようにする。

- 2 令和元年度 年間行事食実施表

月	行事	献立名	実施日	備考
7	七夕	ミートボールのトマト煮、三色ゼリー	7月 5日	
9	十五夜	栗ごはん	9月11日	
10	いも煮会	米沢風いも煮	10月 3日	
12	冬至	かぼちゃのいとし煮	12月19日	
12	クリスマス	コーンライス、ハンバーグ、パンプキンスープ、オレンジジュース	12月25日	
3	ひなまつり	ちらし寿司	3月 3日	

- 3 令和元年度 郷土食 年4回 実施

- 4 令和元年度 嗜好調査 3ヶ月に1回 計3回 実施

- 5 令和元年度 給食だより 3ヶ月に1回 計2回 発行

- 6 まとめ・反省

- ・給食だよりが2回しか発行できず、最終号に行事食をまとめて掲載した。
令和2年度は年4回発行できるようにする。
- ・野菜の残食が減ってきてはいるが、生野菜の残食は増えてきた。
- ・郷土食を青森県にこだわらず提供していきたい。
- ・個人の年齢、体調に考慮して、主食の量、汁物の量（お茶、ジュース含む）を調整したい。
- ・令和2年度も利用者に喜ばれ、楽しく給食を食べれるよう工夫したい。
今年度も調味料のかけ過ぎと、よく噛んで食べることを目標にしたい。
食事前の手洗いも習慣づけれるようにしたい。

〈V〉 防災

防火管理者：植田善久

実施状況 キャンパス

月日	訓練状態	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	時間
5 / 23	部分訓練	14:45 ~ 15:00	地震	震度6	駐車場	2分43秒
9 / 20	総合訓練	11:10 ~ 11:25	火災	ホールトイレ	駐車場	2分37秒
3 / 17	総合訓練	11:10 ~ 11:25	火災	ホール更衣室	玄関前	3分12秒

さくら

月日	訓練状態	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	時間
5 / 10	総合訓練	18:00 ~ 18:15	火災	居室1	玄関前	1分46秒
9 / 20	総合訓練	18:30 ~ 18:45	火災	居室5	玄関前	1分37秒

あやめ

月日	訓練状態	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	時間
6 / 18	総合訓練	18:30 ~ 19:00	火災	1号室	玄関前	1分52秒
10 / 16	総合訓練	19:00 ~ 19:15	火災	納戸	玄関前	1分47秒

＜訓練の状況＞

- ・点呼時返事を大きくするように支援した（利用者）
- ・おはしの徹底（押さない・走らない・しゃべらない）を図った。
- ・消化・誘導・放送の分担を明確にして責務を果たした。（職員）
- ・10月の総合訓練時、消火器を実際に使用して消火訓練を行なった。

＜次年度への課題、方向付け＞

- ・全職員が消火器の取り扱い方を覚えるようにしたい。
- ・放送機器の取り扱いと順序をしっかりと覚える。
- ・グループホームの火災報知器の取り扱い方を確認する。（特にさくら）

〈VI〉 広報

担当：田中大生

1 広報紙「阿闍羅」（相馬良子）

ア 内容

（ア）第17号 令和元年12月 発行

1面 理事長、両施設長挨拶

2面 ワークまつり、行事（キャンプ、親子バーベキュー）

3面 津軽地区農福連携マルシェ、入職員あいさつ、今後の行事日

4面 法人決算書、障害に関する相談窓口、編集後記

（イ）第18号

発行できませんでした。

イ 次年度への課題

今年度は一度の発行でしたが、しいたけ調整加工作業所の建設やワークまつり、

農福連携マルシェなど内容の充実したものが出来た。来年度は例年通りの年二回の発行をして、利用者の生き生きとした様子やしいたけ販売の状況などを記事にしていきたい。

2 ホームページ（田中大生）

ア 内容

（ア）更新

ア 法人理念 職員行動目標

イ ダウンロード ワークショップ大鱈施設パンフレット

ウ 研修会等のご案内 公開研修のお知らせ

エ 情報公開 役員名簿、事業計画書

オ 法人概要 運営施設、職員数、設立年月日、沿革

カ 利用状況 ワークキャンパス大鱈、ワークショップ大鱈、グループホーム

（イ）追加

ア 障害に関する相談窓口のページ

イ トップページに青森県認証のマーク

ウ お知らせのページに青森県から認証を頂いた件について報告と理事長あいさつ

イ 次年度への課題

令和元年度は幾つかの項目について更新と追加ができた。しかし、全体的には更新が遅く、ホームページとしての役割に不足を感じている。また、全く更新されていない情報部分も多くあり、タイムリーに更新するためにも、以前より課題としてあげられている更新できる人材の育成が必要である。次年度は基本操作となるブログと利用状況の更新方法を、ワークキャンパス大鱈とワークショップ大鱈の職員それぞれに1人ずつ、研修の実施とその後の定期的な更新ができるよう指導する。

3 福祉サービス広報（中平恵美）

ア 法人のわかりやすい版ちらし作成

予定されていた期日まで作成はできなかったが、令和2年4月に完成した。

イ 公共施設への配置

4月中に大鱈町役場、公民館、大鱈町社会福祉センターに配布し設置を行った。

4 その他の広報（金枝友和、山川裕紀子）

ア 大鱈町文化協会総会等に出席

6月 4日（火）：文化協会総会 大鱈町中央公民館

8月 9日（金）：文化協会理事会 大鱈町中央公民館

10月 4日（金）：文化協会理事会 大鱈町中央公民館

11月 27日（水）：文化協会反省会 大鱈町中央公民館

イ 大鱈町民文化祭への参加

令和元年11月1日（金）～3日（日）に大鱈町中央公民館で開催された大鱈町民文化祭に作品を展示。

ウ 地域のまつり等へ参加

共同受注窓口を中心に、施設紹介を含め、生産物の紹介及び展示即売をしながら参加した。

「参加状況」

- ・大鰐温泉つつじまつり
- ・近隣施設のまつり
- ・農福連携マルシェ
- ・鰐 come 祭り
- ・まるごと大鰐商人市
- ・もったいない広場&ふくしマルシェ

〈Ⅶ〉 会議

1 連絡調整会議（田中大生）

実施月	開催日	会議内容	構成員
4月	4月 5日（金）	（ア）各施設間の情報共有	施設長
5月	5月16日（木）	（イ）事業の方針の検討	課長
6月	6月11日（火）	（ウ）事業の進捗状況確認	主任
7月	7月11日（木）	（エ）行事等確認と日程調整	計8名
8月	8月19日（月）	（オ）福祉サービス自己評価	
9月	9月12日（木）	（カ）福祉施策等通知の共有	
10月	10月10日（木）	（キ）規程や様式、マニュアル等の新	
11月	11月14日（木）	規作成および改善	
12月	12月12日（木）	（ク）新規採用者育成計画並びに人材	
1月	1月16日（木）	育成計画の検討・作成・検証	
臨時	2月 4日（火）	（ケ）その他協議調整が必要な事項	
2月	2月13日（木）		
3月	3月12日（木）		

2 事業会議（山中司）

実施月	開催日	会議内容	構成員
4月	4月18日（木）	（ア）次月の各業務予定報告	理事長
5月	5月23日（木）	（イ）収支報告	法人職員
6月	6月20日（木）	（ウ）行事計画の立案検討	（非常勤 を除く）
7月	7月18日（木）	（エ）送迎に関すること	
8月	8月22日（木）	（オ）GHに関すること	計19名
9月	9月 2日（月）	（カ）安全巡視の報告	
	9月19日（木）	（キ）連絡調整会議での調整事項につ	
10月	10月17日（木）	いて報告および提案	
11月	11月21日（木）	（ク）新規採用者育成計画並びに人材	
	11月26日（月）	育成計画公表・説明	
12月	12月19日（木）	（ケ）共同受注窓口の納品配達、新規	

1月	1月23日(木)	開拓、出店等に関する予定・報告
2月	2月20日(木)	・検討
3月	3月24日(火)	(コ) その他

3 給食会議；事業会議と同時開催（山口美香）

実施月	開催日	会議内容	構成員
4月	4月18日(木)	(ア) 給食業務、内容の協議	理事長 法人職員 (非常勤を除く) 計19名
5月	5月23日(木)	(イ) 嗜好調査の検討	
6月	6月20日(木)	(ウ) 調理、味付けの工夫等の検討	
7月	7月18日(木)	(エ) 利用者の食に係る健康管理	
8月	8月22日(木)	(給食指導)等の検討・協議・	
9月	9月19日(木)	報告	
10月	10月17日(木)		
11月	11月21日(木)		
12月	12月19日(木)		
1月	1月23日(木)		
2月	2月20日(木)		
3月	3月24日(火)		

4 ケース会議（中平恵美）

開催日	構成員	会議内容
4月17日(水)	全職員	めだかの会報告、研修報告、支援計画 他
5月8日(水)		ケースカンファレンス、春の健康診断 他
6月5日(水)		めだかの会報告、ケースカンファレンス 他
7月3日(水)		ケースカンファレンス、ヒヤリハット 他
8月7日(水)		めだかの会報告、ケースカンファレンス、現場体験実習について、ケース記録 他
9月4日(水)		ケースカンファレンス、研修報告 他
10月2日(水)		めだかの会報告、現場体験実習について、研修報告、モニタリング、個別能力評価、支援計画 他
11月6日(水)		研修報告、三者面談報告、支援計画 他
12月4日(水)		めだかの会報告、ケースカンファレンス、利用者行事について 他
1月8日(水)		ケースカンファレンス、研修報告、事業計画作成について 他
2月5日(水)		ケースカンファレンス、工賃評価について、書類整理について 他
3月4日(水)		めだかの会報告、ケースカンファレンス研修報告、三者面談について 他
3月25日(水)		工賃評価について、モニタリングについて 他

5 グループホーム関係者会議（田中大生）

実施回	開催日	会議内容	構成員
第1回	5月23日(木)	(ア) 業務内容全般の確認	施設長

第2回	7月18日(木)	(イ) 利用者支援方法伝達と支援後確認	サビ管 課長
第3回	9月19日(木)	(ウ) 利用状況確認	主任
第4回	11月21日(木)	(エ) 法人の方針や必要な通知等の周知	栄養士
第5回	1月23日(木)	(オ) 規程、様式、マニュアル等の周知	世話人
第6回	3月24日(火)	(カ) 食事等の管理と栄養等指導 (キ) 世話人、宿直員、生活支援員、サビ管、管理者、栄養士等の顔合わせ (ク) ミニ研修並びにグループワーク (ケ) その他	宿直員 計23名

〈Ⅷ〉 人材育成計画（研修計画）（田中大生）

1 評価・面談

ア 評価

職員育成・評価基準の「キャリアパス要件」に基づき、「職員育成・評価基準シート」を使用して行った。（再雇用および非常勤を除く）

イ 面談（ワークショップ大鰐分）

（ア）目標設定の助言

令和元年5月～8月

被面談者 7名

面談者（白石安英、田中大生）

（イ）目標達成の評価

令和2年3月～4月

被面談者 7名

面談者（秋元広光、佐藤直幸、白石安英、田中大生）

※ 詳細は、別冊〔別表（1）〕参照

2 求められる能力

各職域とキャリア階層ごとに「人材育成年間スケジュール」を下記のとおり作成、周知した。

- ・作成 平成31年 4月 5日 連絡調整会議
- ・周知 平成31年 4月18日 事業会議

作成内容	対象者	期間
一般職 初級	0名	
一般職 中級	10名	
一般職 上級	2名	

経理・事務員 初級	0名	平成31年4月1日～令和2年3月31日
経理・事務員 中級	1名	
経理・事務員 上級	2名	
調理員 乙	1名	
指導職 乙	2名	
指導職 甲	1名	

3 研修参加（実施）等状況

【県社協・保健大学 主催研修】

実施日	研修名	場所	参加者
5月10日	障害児・者福祉施設新任職員研修	青森県立保健大学	笹田和夫
6月13日～6月14日	職場研修担当者研修	ウエディングプラザアラスカ	田中大生、植田善久
6月25日	社会福祉法人指導監査対策セミナー	リンクモア平安閣市民ホール	三上拓雄
6月28日	社会福祉施設職員経理研修	青森県立保健大学	三上拓雄、相馬良子、田中大生
7月11日～7月12日	栄養、食育マネジメントセミナー	青森県立保健大学	山口美香
7月11日～7月12日	キャリアパス対応生涯研修 初任者コース	県民福祉プラザ	金枝友和
8月5日	青森県知的障害者福祉部会 地域支援部会・日中活動支援部会 令和元年度職員合同研修会	県民福祉プラザ	中平恵美、中畑幸
8月31日～9月1日	社会福祉士実習指導者講習会	青森県立保健大学	田中大生
9月17日	社会福祉施設看護職員研修	青森県立保健大学	木田繁子
10月17日～10月18日	キャリアパス対応生涯研修 中堅職員コース	県民福祉プラザ	鎌田健司、竹内友紀
10月24日～10月25日	キャリアパス対応生涯研修 中堅職員コース	県民福祉プラザ	山中司、中畑幸
11月13日～11月14日	キャリアパス対応生涯研修 チームリーダーコース	県民福祉プラザ	中嶋綾子、中平恵美
12月18日～12月19日	キャリアパス対応生涯研修 管理職員コース	県民福祉プラザ	笹田和夫
1月21日	離職防止環境整備研修	ウエディングプラザアラスカ	白石安英
2月14日	メンタルヘルス研修	ウエディングプラザアラスカ	笹田和夫
3月2日	働きやすい福祉の職場づくりに関する制度・事業等説明会	県民福祉プラザ	三上拓雄、田中大生、笹田和夫 中止

【知的障害者福祉協会 主催研修】

実施日	研修名	場所	参加者
4月25日～4月26日	青森県知的障害児者生活サポート協会総会・部長協議会	八戸プラザホテル	佐藤直幸
7月22日～7月23日	全国知的障害関係施設長等会議	東京国際フォーラム	佐藤直幸、白石安英
8月5日	青森県知的障害者福祉協会地域支援部会・日中支援部会 職員合同研修会	県民福祉プラザ	中平恵美
9月5日～9月6日	生産活動・就労支援部会 全国大会	TKPガーデンシティ仙台	不参加
10月3日～10月4日	青森県知的障害者福祉協会職員・利用者研修会	ホテル青森	笹田和夫、中平恵美、竹内友紀 佐々木孝雄、山中司、山内雄太

【青森県・市町村 主催】

実施日	研修名	場所	参加者
7月10日	成年後見制度講演会(町役場保健福祉課主催)	大鰐町中央公民館	相馬良子、幸山雅子
8月2日	青森県保育・障害福祉サービス事業所等認証評価制度説明会 専門セミナー	アピオあおもり	笹田和夫
12月22日	サビ管 更新研修	アスパム	中平恵美、竹内友紀、中嶋綾子、山中司

【阿闍羅会 主催研修】

実施日	研修名	場所	参加者
4月25日	職員スキルアップ研修 第1回	ワークショップ大鰐	14名
4月26日	グループホーム関係職員対象研修	ワークショップ大鰐	11名
5月30日	第1回 内部研修	ワークショップ大鰐	19名
6月10日	新規採用者研修	ワークキャンパス大鰐	笹田和夫、他7名
6月15日	自動車安全運転研修	ワークショップ大鰐	35名
6月27日	第2回 内部研修	ワークショップ大鰐	19名
7月25日	第3回 内部研修	ワークショップ大鰐	13名
8月29日	第4回 内部研修	ワークショップ大鰐	21名
9月26日	第5回 内部研修	ワークショップ大鰐	21名
10月31日	第6回 内部研修	ワークショップ大鰐	21名
11月28日	職員スキルアップ研修 第2回	鰐come	45名
12月24日	第7回 内部研修	ワークショップ大鰐	16名
1月11日	虐待防止研修	ワークショップ大鰐	26名
1月30日	職員スキルアップ研修 第3回	ワークショップ大鰐	16名
2月27日	第8回 内部研修	ワークショップ大鰐	16名

【その他研修】

実施日	研修名	場所	参加者
4月10日	春の業務用 食品展示会	青森産業会館	山口美香
4月17日	社会福祉法人のための決算実務セミナー	県民福祉プラザ	相馬良子
5月21日	安全運転管理者講習	大鰐町総合福祉センター	田中大生
5月23日	菌床椎茸栽培見学研修会	さくらの杜	中平恵美、中畑幸
6月11日	パワーポイント講習	リコージャパン弘前事業所	相馬良子
6月21日	安全衛生大会	ホテルクラウンパレス	三上拓雄、金枝友和
7月4日	サンマッシュ夏期セミナー	鰐come	山中司、山内彩子
7月10日	成年後見講演会	大鰐町中央公民館	相馬良子
9月17日	社会福祉施設看護職員研修	県立保健大学	木田繁子
9月26日	リスクマネジメントセミナー	弘前市民会館	田中大生
10月20日	弘前地区手をつなぐ育成会 創立60周年記念講演会	さくら野	白石安英、保護者2名
11月24日	弘前福祉教育懇談会	弘前市身体障害者体育館	白石安英
11月30日 ~ 12月1日	しいたけ栽培視察研修	若手県 上北市 釜石市 (株)オーテック	相馬良子、笹田和夫、中畑幸、金枝友和、山内彩子、山川裕紀子
12月18日	さくらジョブネット講演会	弘前文化センター	佐藤直幸、白石安英
2月4日	障がい者雇用促進セミナー	ヒロロ	田中大生、鎌田健司

【総会・会議 等】

実施日	会議名	場所	出席者
4月4日	鰐come産直の会 総会	鰐come	佐藤直幸、白石安英、田中大生
4月17日	中小企業家同友会(津軽支部) 総会	アラスカ	田中大生
4月21日	弘前市手をつなぐ育成会 総会	弘前市社会福祉センター	佐藤直幸、白石安英
4月23日	つつじまつり 出店説明会	大鰐町中央公民館	山川裕紀子
4月25日 ~ 4月26日	青森県知的障害者福祉協会 総会	八戸プラザホテル	佐藤直幸、白石安英
4月25日	大鰐温泉観光協会 総会	大鰐町中央公民館	田中大生
4月25日	安全運転管理者協会 役員会	黒石警察署	田中大生
4月26日	大鰐町農業再生協議会 幹事会	大鰐町役場	不参加
5月8日	まるごと大鰐商人の会 会議	日景食堂	田中大生
5月13日	大鰐町農業再生協議会 通常総会	大鰐町役場	田中大生
5月20日	弘前自閉症児者親の会 総会	弘前市社会福祉センター	佐藤直幸、白石安英
5月24日	さくらジョブネット 総会	フォルトーナ	鎌田健司、山川裕紀子
5月28日	中小企業家同友会 津軽支部例会	ユイット デュボワ	田中大生
5月29日	安全運転管理者協会 総会	不二やホテル	田中大生
6月4日	大鰐町文化協会 総会	大鰐町中央公民館	金枝友和、田中大生、山川裕紀子
6月11日	青森県社会就労センター協議会 総会	アピオあおもり	不参加
6月18日	つつじまつり 反省会	大鰐町中央公民館	山川裕紀子
6月24日	大鰐町社会福祉協議会 評議員会	大鰐町総合福祉センター	白石安英
6月25日	大鰐町地域自立支援協議会	大鰐町役場	田中大生
6月26日	ひろネットオンブズマン委員会 総会	ヒロロ 3階 多世代交流室2	佐藤直幸、白石安英
7月3日	鰐come業者協力会「鰐の会」役員会	鰐come	田中大生
7月8日	まるごと大鰐商人の会 会議	日景食堂	田中大生
7月9日	安全運転管理者協会 役員会	黒石警察署	田中大生
7月18日	大鰐町子ども子育て会議	大鰐町役場	田中大生
7月23日	鰐come業者協力会「鰐の会」総会	鰐come	田中大生、笹田和夫
7月31日	さくらジョブネット 福祉施設合同説明会	ヒロロ	佐藤直幸、鎌田健司
8月9日	大鰐町文化協会 理事会	大鰐町中央公民館	田中大生、金枝友和、山川裕紀子
9月1日	大鰐ホームまつり	大鰐ホーム	笹田和夫
9月6日	中小企業家同友会 津軽支部例会	鰐come	白石安英、田中大生、笹田和夫
9月18日	第2回工賃アップ協議会	弘前市社会福祉センター	笹田和夫
9月16日	まるごと大鰐商人の会 会議	日景食堂	不参加
10月5日	大鰐町文化協会 理事会	大鰐町中央公民館	田中大生、金枝友和、山川裕紀子
10月11日	まるごと大鰐商人の会 総会	鰐come	笹田和夫、田中大生
11月13日	第3回中南障害者工賃アップ協議会	弘前市社会福祉センター	笹田和夫
11月14日	年末調整説明会	弘前文化センター	相馬良子
11月18日	大鰐町子ども子育て会議	大鰐町役場	田中大生

11月22日	大鰯町社会福祉大会	大鰯町総合福祉センター	笹田和夫
11月22日	中小企業家同友会 津軽支部例会	大鰯町中央公民館	笹田和夫、白石安英
11月27日	大鰯町文化協会 理事会	大鰯町中央公民館	山川裕紀子
12月3日	地区社協福祉大会(表彰)	板柳町多目的ホールあぶる	田中大生
1月9日	福祉避難所開設図上訓練	弘前市消防事務組合 消防本部	植田善久、鎌田健司
1月9日	新年互例会	大鰯町中央公民館	秋元広光、白石安英、笹田和夫
1月24日	中南地域農福連携推進連絡会議	青森県産業技術センター	田中大生
1月29日	大鰯町子ども子育て会議	大鰯町役場	田中大生
2月5日	大鰯町農業再生協議会 幹事会	大鰯町役場	田中大生
2月14日	大鰯町農業再生協議会 臨時総会	大鰯町役場	田中大生
2月25日	弘前市松原小学校学校運営協議会	松原小学校	白石安英
3月5日	大鰯町子ども子育て会議	大鰯町役場	田中大生
3月6日	青森県立弘前第一養護学校卒業式	青森県立弘前第一養護学校	佐藤直幸
3月13日	青森県立黒石養護学校 卒業式	青森県立黒石養護学校	不参加
3月14日	弘前大学教育学部附属特別支援学校卒業式	弘前大学教育学部附属特別支援学校	佐藤直幸
3月17日	大鰯町社会福祉協議会 評議員会	大鰯町総合福祉センター	白石安英
3月19日	障害福祉サービス事業者集団指導	リンクモア平安閣市民ホール	佐藤直幸、白石安英、他6名 中止

〈IX〉 苦情解決

1 施設担当職員

苦情解決責任者 施設長 佐藤直幸
苦情受付担当者 支援課長 中平恵美

2 第三者委員

ひろさき地域福祉ネットワーク・オンブズマン委員会（ひろネット）
訪問委員 寺口美代子、清藤紀子（2名）

3 訪問記録

訪問日	委員名	状況と問題点
4 / 2 2	村上、工藤	4名の利用者と面談 特に問題なし
5 / 2 1	寺口、清藤	5名の利用者と面談 特に問題なし
6 / 2 5	寺口、清藤	8名の利用者と面談 特に問題なし
7 / 2 4	寺口、清藤	5名の利用者と面談 特に問題なし
8 / 2 3	寺口、清藤	5名の利用者と面談 特に問題なし
9 / 2 6	寺口、清藤	4名の利用者と面談 特に問題なし
10 / 2 5	寺口、清藤	6名の利用者と面談 特に問題なし
11 / 2 9	寺口、清藤	7名の利用者と面談 特に問題なし
12 / 1 8	寺口、清藤	8名の利用者と面談 特に問題なし
1 / 3 1	寺口、清藤	4名の利用者と面談 特に問題なし
2 / 2 5	寺口、清藤	6名の利用者と面談 特に問題なし
3 / 2 7	寺口、清藤	新型コロナウイルス対策のため休止

〈X〉 地域生活支援 （笹田和夫）

令和元年9月25日に開催された第3回理事会において、グループホーム事業の再編による実施が承認され、令和元年12月1日から以下のような方法で事業変更した。

1 再編方法

- ア グループホームすみれ荘とグループあやめを、グループホームさくらで一体管理で行う。
- イ グループホームすみれ荘の類型は「外部サービス利用型」から「介護サービス包括型」へ、定員を6人から5人へ変更。
- ウ グループホームすみれ荘の名称を、グループホームすみれへ変更。

2 グループホームさくら（介護サービス包括型）

居宅数3棟・・・さくら、すみれ、あやめ

ア グループホームさくら

（ア）住居 定員6名 現員6名（令和2年3月31日現在）

※ 生活介護2名 就労継続支援B型4名

（イ）食事

メニューについては栄養面を配慮し、入居者の意見を聞きながら作っている。

健康面に留意して、好き嫌いなく何でも食べられるよう工夫している。

(ウ) 地域との関わり

町内の行事であるねふたまつりの見学をしている。

(エ) 次年度への課題

障害や生活能力が多様であり、個別の対応が必要である。利用者同士で助け合いながら生活できるよう支援をしていきたい。

イ グループホームすみれ

(ア) 住居 定員5名 現員5名 (令和2年3月31日現在)

※ 就労継続支援B型5名

(イ) 食事

メニューについては栄養面を配慮し、入居者の意見を聞きながら作っている。
健康面に留意して、好き嫌いなく何でも食べられるよう工夫している。

(ウ) 地域との関わり

町内の行事であるねふたまつりの見学をしている。

(エ) 次年度への課題

個性的な利用者が多い。生活ルールを守り安全に生活していくために支援していく。

ウ グループホームあやめ

(ア) 住居 定員7名 現員6名 (令和2年3月31日現在)

※ 就労継続支援B型6名

(イ) 食事

メニューについては栄養面を配慮し、入居者の意見を聞きながら作っている。
健康面に留意して、好き嫌いなく何でも食べられるよう工夫している。

(ウ) 地域との関わり

町内の行事であるねふたまつりの見学をしている。

(エ) 次年度への課題

比較的協力的に生活しているが、個別に生活ルールを守って生活するよう支援をしていく。

3 グループホームこすもす (外部サービス利用型)

ア 住居 定員8名 現員8名 (令和2年3月31日現在)

※ 就労継続支援B型7、一般就労1名

イ 食事

メニューについては栄養面を配慮し、入居者の意見を聞きながら作っている。
健康面に留意して、好き嫌いなく何でも食べられるよう工夫している。

ウ 地域との関わり

町内の行事であるねふたまつりの見学をしている。

エ 次年度への課題

比較的協力的に生活しているが、個別に生活ルールを守って生活するよう支援をしていく。

〈XI〉 共同受注窓口

1 「津軽地区障害者就労継続支援事業所共同受注窓口ふらわーずぶるーむ（ 鎌田健司

ア 実施概要

令和元年度は、催事への参加回数（平成30年度20回）、売上（平成30年度554,891円）ともに平成30年度を上回った。さくら野百貨店弘前店で開催した「農福連携マルシェ」も4年目、過去最高の集客数と売上になっている。

また、ワークショップ大鰐の職員だけでなく、ワークキャンパス大鰐の職員も催事に協力することで、法人としての体制が確立している。

イ 催事売上

月	売 上	月	売 上
4月	3,090円	10月	37,550円
5月	234,660円	11月	94,610円
6月	38,630円	12月	11,430円
7月	36,760円	1月	8,960円
8月	12,400円	2月	8,580円
9月	196,090円	3月	0円
小計	521,630円	小計	161,130円
合 計	682,760円		

ウ 参加催事

実施月日	催事名	出店担当
4月13日（土）	もったいない広場&福祉マルシェ	山川裕紀子
5月18日（土）	つつじまつり	田中、山川
～22日（水）		鎌田
25日（土）	もったいない広場&福祉マルシェ	幸山稚子
6月1日（土）	まるごと大鰐商人市	山川裕紀子
～2日（日）		鎌田健司
23日（日）	もったいない広場&福祉マルシェ	山中 司
7月7日（日）	りんどう苑まつり	中嶋綾子
	月見野まつり	田中大生
13日（土）	もったいない広場&福祉マルシェ	鎌田健司
28日（日）	まるごと大鰐商人市	山川裕紀子
8月10日（土）	もったいない広場&福祉マルシェ	幸山稚子
21日（水）	ふれあい広場	山川裕紀子
9月1日（日）	茜まつり	山中 司

15日(日)	もったいない広場&福祉マルシェ	鎌田健司
21日(土)	アップルハウスまつり	山内彩子
	更生保護女性大会	田中大生
28日(土)	ノウフクマルシェ	鎌田、山川
~29日(日)		田中
10月20日(日)	復興支援フェア in 鰯 come	中嶋綾子
11月7日(木)	東北フォーラム秋田	鎌田健司
~8日(金)		
10日(日)	もったいない広場&福祉マルシェ	田中大生
15日(金)	青森県社会福祉大会	山川裕紀子
22日(金)	大鰯町社会福祉大会	田中大生
12月14日(土)	もったいない広場&福祉マルシェ	佐藤、笹田
1月11日(土)	もったいない広場&福祉マルシェ	田中大生
2月8日(土)	もったいない広場&福祉マルシェ	笹田和夫

※ 計24回 延べ31日間

2 中南地区障害者就労施設工賃向上支援協議会「中南障害者工賃アップ協議会」

(白石安英)

ア 開催日及び会場、参加者数等

開催日	会場	参加者数	備考
第1回 6月21日(金)	弘前市社会福祉センター	24名	
第2回 9月18日(水)	〃	26名	
第3回 11月13日(水)	〃	19名	
第4回 2月14日(金)	〃	19名	

イ 今年度の活動概要

(ア) 「ハグワーク」「りんごアセスメント」「農福連携の推進」「ノウフクマルシェ」

「全国障がい福祉物産展」等の情報交換・情報提供をとおして、販路の拡大を図った。また、受託作業としてDMノバフォームのフルーツキャップ作業や施設外就労等についても情報交換・情報提供を行った。

(イ) B型事業所生産品の情報確認(更新)を行い、その活用と橋渡しについて確認し、各市町村商工会議所との連携を図ることで販路・収益の拡大に繋げるための準備を進めた。

(ウ) アンケート調査及び今後の活動の方向性について、弘前学院大学社会福祉学部

小川幸裕教授と弘前大学大学院教育学研究科 菊地一文教授から助言をいただくとともに継続・連携して支援いただけるよう確認した。

ウ 次年度への課題

- (ア) 会則・会費については検討を継続し、この協議会が三障害全体で連携して取り組めるようにする。できれば、会費は徴収せず、さくらジョブネットの事業の一つとして位置付け、工賃向上と販路拡大及び農福連携等の充実に向けて取り組みを継続する。
- (イ) 3年目に向けての体制作りとして「つがる地区障害者就労支援連絡会（さくらジョブネット）」の中に活動の中心を位置付ける方向で提案したが、協議会の参加事業所の全てがさくらジョブネットの会員にはなっておらず、合意形成のため継続した協議が必要である。また、さくらジョブネットとも継続して連携が必要である。
- (ウ) アンケート調査については、各市町村商工会議所の全会員を対象にした場合、対象数が全体で3,000カ所を越えるため、障害者法定雇用率の対象となっている事業所に絞り込んで実施したいと考えている。この際、各商工会議所の総会等で障害者の雇用や賃金（工賃）の実態について伝えることを検討したい。また、各施設・事業所の生産品の紹介も行い、販路の拡大も図る。

〈ⅩⅡ〉 虐待防止委員会 （白石安英）

1 実施日時 令和2年1月29日（水）9：30～10：30

2 参加者

役職名	氏名	所属等
委員長	秋元 広光	理事長
副委員長	佐藤 眞一	業務執行状況監査役
委員	工藤 美生	(虹の会会長)
	寺口美代子	第三者委員訪問委員（オンブズマン）
	工藤 昌子	第三者委員訪問委員（オンブズマン）
	佐藤 直幸	ワークキャンパス大鰐施設長
	白石 安英	ワークショップ大鰐施設長

※ 浅利金利（椎の実会会長）委員、清藤紀子（オンブズマン）委員は、都合により欠席

3 実施内容

- ア 平成31年度（令和元年度）の虐待に対する取り組み等を報告、検討した。
- イ 令和2年1月28日に実施された認証評価のための現地調査で、虐待防止に関する研修を実施した際、参加できなかった職員に研修資料を渡すだけでなく別日に研修を行うよう指摘されたことについては、次年度の実施に向け改善する方向で検討中である旨報告した。
- ウ グループホーム利用者から苦情がないかとの質問があった点については、集団生活をしていることから利用者間の不和や軋轢がないわけではないが、相性もある

ためそれに合わせた支援をしていること、職員間の申し送りは、世話人業務日誌を活用し世話人とバックアップ施設および居宅担当職員等が情報共有できるようにしていることを報告した。また、宿直員が配置されているグループホームにおいては世話人と宿直員が交代する際にも情報共有されている点も報告した。

エ 「保護者から職員へ、話しやすい（伝えやすい）環境になっているか」という質問については、年2回の三者面談の実施に加え、保護者参加の行事や職員との交流の際に、意見等を吸い上げる機会としているが、保護者が施設に対しより相談しやすい環境作りに向けて取り組むことを確認している。

オ オンブズマンによる面談について、利用者本人だけでなく保護者との面談についても施設来所日を周知するなどして機会を設けることを検討する。

カ 次年度の予定は、令和元年度と同時期（1月27日（水）の午前中を予定）とする。

4 年間活動

ア 早期発見チェックリストの全職員への配付

配付月： 令和元年7月、10月、令和2年1月 計3回

イ 虐待防止チェックリストの全職員への実施

回収月： 令和2年4月

〈XⅢ〉 安全巡視 （佐藤直幸）

1 安全巡視実施日

実施年月日	担当者
令和 1年 7月22日	田中大生 ・ 中平恵美
令和 1年 9月12日	金枝友和 ・ 山中 司
令和 2年 1月22日	中畑 幸 ・ 山内彩子
令和 2年 5月 7日	三上拓雄 ・ 笹田和夫

2 実施内容

3ヶ月に1回、キャンパス・ショップより各1名ずつ選出し実施。

法人内事業所全部を訪問、注意箇所を点検し事業会議で報告し検討した。

3 次年度への課題

前年度から比べると環境維持が課題となっているように見受けられた。そのほか、経年劣化による建物の破損箇所も多くなっており、各事業所で修繕が必要になってきている。

また、令和元年度計画の4回目（令和2年3月～4月実施）の安全巡視が、計画どおり実施されなかったため、令和2年度は計画通り実施をしていきたい。

〈XⅣ〉 地域交流 （笹田和夫）

1 地域との交流

ア 大鰯町民生児童委員協議会

今年度9月19日（木）、大鰯町民生児童委員31名の訪問を受け、同協議会と

は初めて交流する機会に恵まれた。内容はワークショップ大鰐・ワークショップ大鰐の施設および作業の見学と障害に関する概要説明及び質疑応答を行った。法人側からは、「在宅にいる障害者に関わる課題が生じた場合は、是非相談をして欲しい。」と、地域相談窓口があることを伝えている。

イ 大鰐町社会福祉協議会

評議員会への出席・ふれあい広場への参加協力・社会福祉大会への出席出店をした。

ウ 町内加盟地域団体

大鰐温泉つつじまつりへの出店協力、おおわに文化祭美術展への参加協力、まると大鰐商人市への出店協力、鰐 come イベントへの協力、鰐 come 産直の会および鰐 come 業者協力会への商品納入と協力、中小企業家同友会津軽支部例会等への出席をした。

エ 大鰐町

大鰐町地域自立支援協議会、第2期大鰐町子ども・子育て支援事業計画策定のための会議、大鰐町農業再生協議会へ委員として出席した。

2 学生やボランティア等の受け入れ

ア 大鰐中学校福祉体験学習（1年生徒）

今年度は10月17日（木）～18日（金）の2日間、ワークキャンパス大鰐には6名、ワークショップ大鰐には4名の生徒が体験をした。作業の他に、「利用者・職員へのインタビュー」を行うなど、直接ふれあう機会を設けた。

イ 特別支援学校からの現場実習生

以下の実習生を受け入れた。

（ア）ワークキャンパス大鰐

県立弘前第一養護学校高等部	3年	男子	1週間
〃	1年	男子	2週間
弘前大学附属特別支援学校高等部	3年	男子	2週間

（イ）ワークショップ大鰐

県立弘前第一養護学校高等部	3年	男子	1週間
〃	1年	女子	2週間

ウ 教員免許取得者の介護等体験

8月26日（月）～30日（金）の5日間、弘前大学教育学部1年学生の教員免許取得者に対する介護等体験実習をワークショップ大鰐で担当した。リサイクルやしいたけの作業の他、昼食時間などにおいて、できるだけ利用者とふれあう機会を多く設けた。

3 情報の収集と公開

ア 利用者・保護者・地位住民に対して、HP上で情報を公開している。今後も可能な限り、情報量を増やしていきたいと考えている。

イ 福祉サービス広報の一つとして、誰にでもわかりやすい内容のパンフレットを作成した。大鰐町役場障害福祉課、大鰐町総合福祉センター、大鰐町中央公民館に設置した。

4 次年度への課題

- ア 今年度初めて交流することができた民生児童委員連絡協議会とは、今後も交流機会を設けて連携を図っていききたい。
- イ 大鰐中学校生は、1年生における福祉体験ということであるが、生徒がとても自然に利用者に接していた。共生社会の実現のためにもとても有効な機会であり、今後も協力していききたい。
- ウ 令和2年度から特別支援学校実習生のうち、2名が本法人を利用することになった。今後もキャンパス・ショップの良さをPRして、利用者拡大を図っていききたい。
- エ コロナウイルス感染拡大の影響を受け、事業実施に制約がでている。関係機関と連絡調整を図りながら進めていききたい。